

ベネズエラ

主要データ

国名(英名)	ベネズエラ・ボリバル共和国(Bolivarian Republic of Venezuela)
面積(km ²)	912,050
海岸線延長(km)	2,800
人口(百万人)	26.4 (2008年7月推定)
人口密度(人/km ²)	29.0
GDP(10億US\$)	334.4
一人当たりGDP(US\$)	12,800
一人当たり銅使用量(kg/人)	N/A
主要鉱産物: 鉱石(千t)	金:8.2(t)、ニッケル:15.7
主要鉱産物: 地金(千t)	なし
鉱業管轄官庁	鉱業基礎産業省
鉱業関連政府機関	国立地質鉱山研究所(INGEOMIN)
鉱業法	探鉱鉱区と生産鉱区の区別はない。
ロイヤルティ	なし
外資法	既存鉱区は外資100%の参入が認められている。
環境規制法(環境影響評価制度、環境・排出基準の有無等)	探鉱段階では、県庁から環境ライセンスが交付 開発・生産段階では、環境影響評価調査を国家天然資源・環境庁に提出し、同庁の承認を受ける必要がある。
鉱業公社	N/A
鉱業活動中の民間企業	外国資本: Anglo American, Crystallles International 等
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	2006年12月に急進左派のチャベス大統領が再選されたことで、資源の国家管理の動きが一層強まっていく中、2007年2月、ベネズエラ政府は、チャベス大統領の方針のもと、18か月以内に鉱業法を改正すると発表した。鉱業基礎産業省から示されたドラフトでは、同国の鉱業に投資する民間企業は、国営企業とのJVが前提となり、国がマジョリティーを持つことが明記されており、これら有望案件への影響が懸念視されている。
2007年のトピックス	ベネズエラの鉱物資源は金及びニッケルにほぼ限定されるが、市況が高値推移している中、特に、金を中心とした有望案件が注目されている。しかしながら、2006年12月に急進左派のチャベス大統領が再選されたことで、資源の国家管理の動きが一層強まっていく中、現在、民間投資家が保有するプロジェクト権益の過半数を国家即ち国営鉱業公社に移管することを義務づけることなどを骨子とした鉱業法改正法案が審議中であるとされ、今後の民間企業による鉱業活動が制限される可能性があり、その鉱業法改正の行方が注目される。 2008年1月、政府はLoma de Niquel 鉱山が保有するニッケル鉱区6カ所の採掘権を剥奪した。鉱業基礎産業省によれば、同鉱山は協定に違反し、労働者に食糧を供給せず、鉱山周辺道路の維持管理を怠ったことがその理由とされる。現在、同鉱山による異議申し立てを受け、政府間で、審議中で、同鉱山の行方が注目される。

1. 鉱業一般概況

ベネズエラの産業の中心は石油関連産業(輸出額の約90%、国庫歳入の約50%、国内総生産の約25%を石油に依存)であり、本産業への依存度が極めて高い。これに続く輸出産業は鉄鉱石とアルミであり、鉄鉱石は年産2千万t程度、ボーキサイトは年産5百万t程度を輸出している。同国の非鉄産業は、金とニッケルにほぼ限定されている。

1999年9月の新鉱業法が施行されてから、

市況が高値推移している金を対象に、外資を中心として比較的活発な探鉱開発活動が見られる。この中でも、Bolivar Gold社(加)と国営のCVG Minerven社のJV(95%/5%)により開発が進められていたChoco 10金鉱床が2005年8月より操業を開始し、一方、Gold Reserve社(加)による金・銅鉱床であるBrisas金・銅鉱床や、Crystallex社所有のLas Cristinas金プロジェクトも現在開発待ちの状況にあるなど、注目プロジェクトは少なくない。

しかしながら、2006年12月に急進左派のチャベス大統領が再選されたことで、資源の国家管理の動きが一層強まっていく中、2007年2月、ベネズエラ政府は、チャベス大統領の方針のもと、18か月以内に鉱業法を改正すると発表した。鉱業基礎産業省から示されたドラフトでは、同国の鉱業に投資する民間企業は、国営企業とのJVが前提となり、国がマジョリティーを持つことが明記されており、これら有望案件への影響が懸念視されている。

2. 鉱業政策の主な動き

2005年9月にチャベス大統領が言及した鉱業政策転換のポイントは以下のとおり。

- ・ 今後、外資企業等に対し、金、ダイヤモンド等の鉱業権は付与しない。
- ・ 既に付与している鉱業権、民間との鉱業契約を見直し、休眠状態にある場合はこれを取り消す。
- ・ 既に鉱業権を保有し操業中にある鉱山は、引き続きこれを認める。

これを受け、現在、民間投資家が保有するプロジェクト権益の過半数を国営鉱業公社に移管することを義務づけることなどを骨子とした鉱業法改正法案が審議中であるとされる。また、政府は、国営石油公社と同様、探査、採掘、加工事業に直接管理・監督する国営鉱業公社を創設する提案をしているとされる。鉱業基礎産業大臣は、本改正によって、管理が難しい鉱業分野の再編を促すだろうとし、再編後のイメージとして、官民共同の鉱山会社を設立し、国家は株主として鉱山経営を管理するスタイルを想定していることを明らかにした。また、この変革は一朝一夕に実現できるものではなく、民間企業が政府(たとえば国営企業)との合併に適応するための移行期間を設けることが必要だと付け加えた。これに対し、業界側は、国家が権益の過半数を有する合併事業の場合、プロジェクトの推進や資金調達に困難になり、むしろ国家の財政負担が大きくなると主張し、政府の考えに反対の姿勢を示している。このような中、鉱業基礎産業省は、現在、休眠中の鉱区に対して、国が51%を所有するPublic-Private Partnershipを結ぶよう、企業側に求めていくとともに、鉱石などの原料を海外に輸出するこ

とを規制する考えを示し、国家管理強化の動きが表面化している。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

金の2007年の生産量は、前年比23.4%減の8.2t(WBMS)に増加した。内訳(Raw Materials Data)は、主力のLa Camorra 金山(Hecla 鉱山社)が2.72t、2005年に新たに操業を開始したChoco 10 金山(Gold Fields 社)から1.54tが生産された。

一方、ニッケルの2007年生産量は、前年比5.4%減の15.7千tであり、全てLoma de Niquel 鉱山から生産され、全量、フェロニッケルとして主に、オランダ、イタリア、英国等の欧州諸国に輸出されている。

4. 鉱山会社活動状況

現在、当国において特筆すべき鉱山会社はない。

5. 鉱山・製錬所状況

5-1. 鉱山

以下、主要鉱山について生産動向を述べる。

(1) Loma de Niquel

首都カラカスの南西80kmに位置するニッケル鉱山(Anglo American 他)で、同国ニッケル生産の大部分を生産し、フェロニッケルとして欧州諸国に輸出している。2007年のニッケル生産量は、前年比5.4%減の15.7t。

同鉱山は、開発投資額約500百万US\$により、2001年に操業を開始したラテライト型の露天掘ニッケル鉱山で、現在の鉱量は41.5百万t(ニッケル1.48%)、マインライフは約30年と言われている。

2008年1月、政府はLoma de Niquel 鉱山が保有するニッケル鉱区6カ所の採掘権を剥奪した。鉱業基礎産業省によれば、同鉱山は協定に違反し、労働者に食糧を供給せず、鉱山周辺道路の維持管理を怠ったことがその理由とされる。現在、同鉱山による異議申し立てを受け、政府間で、審議中で、同鉱山の行方が注目される。

(2) La Camorra

ベネズエラ東部のBolivar 地域に位置する当国最大の金山(Hecla Mining 社(米)が操業)で、高品位な鉱脈型金鉱床として著名。鉱量(2003

年末)は 0.537 百万 t(金 25.7g/t)である。2007 年の産金量は 87,490oz と 2006 年の 160,563oz を大きく下回った。また、2007 年のキャッシュコストは、品位低下、エネルギーコストの増大等で 2006 年 345US\$/oz から 537 US\$/oz と大幅に増加している。

(3) Choco 10

本鉱山は、ベネズエラ東部の El Callao 地区 (Bolivar 地域)に位置する鉱染型金鉱床で、Bolivar Gold 社(加)と国営の CVG Minerven 社の JV(95%/5%)により開発が進められ、2005 年 8 月に操業を開始した(粗鉱処理量 5.4 千 t/日)。その後、2006 年 3 月に、南アの産金大手である Gold Fields 社が、Bolivar Gold 社を 320 百万ドルで買収し、経営権を掌握したが、2007 年 10 月、Gold Fields 社は、ジュニア企業 Rusoro Mining 社に、同国における Goldfields 社の全株を 5 億 2 千万 US\$で売却した。GoldFields 社の Cockerill 社長は、ベネズエラ撤退最大の要因は「チャベス大統領の鉱業政策」であるとしつつ、水資源を巡る住民問題や頻発するストライキなども理由の一部だとしている。2007 年の生産量は 1.54t であった。なお、現在の鉱量(Inferred)は 40.8 百万 t(金品位 2.2g/t)。

5-2.探鉱開発

現在は、地質ポテンシャルが高く、市況が高値推移している金を対象に、外資を中心として比較的活発な探鉱開発活動が見られる。

以下、主要プロジェクトについて探鉱開発動向を述べる。

(1) Las Cristinas

本鉱床は、ベネズエラ東部の Bolivar 地域に位置する、鉱染型の大規模低品位金鉱床(金量約 20.8 百万 oz、金品位 1.2g/t)で、世界でも有数の未開発金鉱床として注目されている。

Crystallex International 社(カナダ)が開発権を有するが、既に 2003 年 9 月に F/S を終了しており、初期開発投資額は 293 百万 US\$、露天掘採掘と CIL 法の採用により年産金量 30 万 oz を計画している。

チャベス大統領による国営化政策の影響で、本プロジェクトの行方が懸念されていたが、2006 年 3 月、ベネズエラ政府は同プロジェクトの F/S で経済面、技術面なども含め調査した結果、本プロジェクトが同国にとって重要なプロジェクトになると判断し、Crystallex 社に対し、Las Cristinas 鉱山開発を承認した。しかしながら、その後、環境天然資源省より、同プロジェクトは環境破壊の恐れがあるとした住民団体の差止め請求が認められ、5 月 30 日付けで否認通知があり、暗礁に乗り上げた格好となっている。

(2) Las Brisas

本鉱床は、Las Cristinas 鉱床に隣接する鉱染型金・銅鉱床で、本鉱床を保有する Gold Reserve 社(加)は、2005 年 1 月、開発を決定した。すでに、開発のための環境・社会影響評価調査を提出済みで現在、政府の承認待ちの状態。2008 年内の操業開始を目指しているとされる。

開発規模は、初期開発投資額 552 百万 US\$で、産金量 48.7 万 oz/年、産銅量 2.9 万 t/年、銅クレジットを考慮した金の生産キャッシュコストは 153US\$/oz、マインライフ 16 年である。現在の鉱量(Proven and Probable)は 482.7 百万 t(金 0.66g/t、銅 0.13%)である。

6.我が国との関係

非鉄鉱業分野におけるわが国企業との事業関係、輸出入関係は、現在は見られない。

7.その他トピックス

特になし。

(2008.6.24/リマ事務所 西川 信康)